

会員だより

姫 蛍 飛び交う

連休後頃から高槻新川桜堤公園にて、陸生蛍のヒメボタルが昨年より倍近く発生しました。

昨年来の国土交通省や高槻市や周辺企業の多大な協力や周辺自治会の努力に成果が出たようです。5月17日から27日まで、毎日約100匹近くが飛び交い、28日頃から急激に少なくなりました。小さな弧を描きながら地上1m以内の低空飛行です。観察している私たちの周りを飛び交います。雌は羽が退化していて地上から10cm以内の草に留まって、かすかな光を放ちます。

雄は約1秒弱の間隔で点滅を繰り返して飛行します。雌を見つけて飛んでは至難のことで飛んでいるのは雄ばかりです。不規則なイルミネーションのように光る場所が次々と変わります。新川堤防の近くに墓地があり祖先の霊が帰ってきたようでもあり親しみと恐怖を感じながら夜1

時過ぎまで月明かりの下で観察していました。深夜の11時頃になると(気温が20度以下に下がると時間帯)蛍は芥川の堤防から新川を飛び越えて墓地近くの桜の木の下近くに一斉に帰ってくるのです。

飛べない雌がどのような芥川堤防の草の下でも幼虫が育っているのだろうか? 違う親から生まれたい仲間と出会うために、広い芥川の堤防まで昼間に飛んで行って? 暗くなる8時半以後(気温が22度以下がる時間)に恋人との出会いを楽しみにして飛んでいるのか?

良く晴れて月の光が強くなつた26日(土曜)にはいつもより1時間早く、10時になるとねぐら(育つた場所か?)の桜の木の下に帰ってくる蛍が多数いました。蛍が飛び交う場所を残して、5月28日、細麦(通称ぶたくき、ひどい花粉症の原因になる、ギザギザのある花粉が喉にひっかかって、6時間位後に激痛がはしり、七転八倒、

痰の小さいのがいくつも出てくるが痰が小さいために、吐き出すのにもすごく苦しい)等が咲く芥川堤防を綺麗に大型車で除草されました。

朝から夕方近くまで雨が降つた25日の夜11時過ぎに、細麦アレルギー体質の方に出会いました。「雨上がりで草がぬれていて風のない今夜やつと姫蛍を見に出かけてきました」と話されました。蛍が保存されるために、細麦の咲く時期は堤防には近づかない様にしていくとのことでした。蛍はこのような心やさしい人にも支えられているのです。 Y・J

甘辛チャンネル

子供達そして大人達

五月五日は昔は端午の節句と言われ、男の子の成長を祝う日。では女の子の成長を祝う日は? 勿論

三月三日雛祭りですネ。昭和二十年八月の終戦により、男尊女卑は消え、男女平等になりました。端午の節句は、「子供の日」と名を改めて祝日となり、子供の成長を祝うと共に次世代を担う子供達を暖かく見守る方法を考える日です。今、世界中はいつもどこかで争いがおこり、爆

弾や銃で多くの人々が尊い生命を落とされています。一番の犠牲は子供達です。親を失無い、路頭にさまよっている子供達。

世界の国々から支援の手が差し延べられているが僅かの食糧をむさぼる様に口に入れていた姿を見たり聞いたりすると、終戦後の日本の孤児達を思い出します。 当時も世界の國から食糧が送られて来、また、「とんがり帽子の赤い屋根」の歌で知られる施設を始め沢山の孤児達の住む家が出来ました。そこで育つた人達は今、六十才代後半から七十才代前半の年齢になっている。

クレマチス 四季彩

- ・科名：金鳳花(きんぼうげ)科
- ・花期：4月～6月
- ・花言葉：精神的な美しさ、旅人の喜び
- ・開花時期は4月25日～梅雨頃。

古くから茶花に使われるなど、和風のイメージもあるが最近洋風のものも増えた。

はなびらが6枚ものは「鉄線」(てっせん)、8枚ものは「風車」(かざぐるま)、クレマチスはこの2つの総称。

「鉄線」はつるが細くて丈夫で針金のようなことから、中国原産。

五月ごろ白または紫色の六弁花を長い梗の先端に開く。中心に暗紫色の雄芯がむらがり、径六センチに達するものもある。

「風車」は花の形から、日本原産。

「蔓はなれ月にうかべり鉄線花」

水原秋桜子

T・N



あの苦しみを二度と味わせない為に皆努力して今の日本を造りあげたが、それが少し裏目に出たのか少し甘やかした過ぎたのだから、今の子供達は堪え忍ぶ力が失われ、欲しい物を与えられ、言動も抑圧されず、他に対して暴言を吐き、エスカレートして暴力を振り、やがて他に対しては、いじめ、身内を殺す様な事件も発生している。 守るべき大人達もつと毅然とした態度で子供達に接して行かねばと思いつつ、大人達は子供から逃げているのではないかと改めて反省の気持ちです。 N・Y

後記

この皺くちゃでシミだらけの老けた顔は誰?? 白内障の手術後、初めて鏡を見た時、自分を納得させるのに暫くかかりました。今まで厚いベールを通して見ていて確かなところは見えていませんでした。虚像を真像と信じていた自分が恥かしい。眼鏡を掛けず須らく真実を見極める判断力を養いたいものです。 S・N